

国民体育大会 関東ブロック大会 派遣報告書

大会名	第71回国民体育大会 関東ブロック大会 バasketボール競技
報告者	和嶋 陽一 (クラブ連盟)
期間	平成28年8月19日(金)～21日(土)
会場	山梨県 富士吉田市富士北麓公園体育館
スケジュール	8月19日(金) 審判会議、レクチャー 8月20日(土) 1回戦、レクチャー 8月21日(日) 準決勝・決勝

■8月19日(金) 審判会議

渡邊 整 氏(関東審判長)より

- ・ 今大会は関東から国体出場1チームを決める大会であり厳しい試合となることが想定される。また、国体という特別な大会の予選であり、県協会や多くの関係者が関わる通常等は違う大会の予選である。正しい事を行っているチームが正しく勝つべく、選手に正しいプレーを行わせる様に審判が準備して臨むことが必要。
- ・ S級審判を目指すために必要なこと(意味・準備・技術の理解)

■レクチャー

講師 北島 寛臣 氏(指名・埼玉県)

テーマ「S級審判になって感じたこと S級になる為に取り組んだこと」

- ① S級2年目となり経験したこと
 - ・ 今までにないレベルの割り当てが来る。自分の判定で選手の契約やサラリーが変わる可能性があることや、見られていることやミスが出来ないことへのプレッシャーを常に感じている。
- ② 目標設定
 - ・ 元々は高校の顧問としてチームを強くすることが1番で、審判活動は2番であった。
 - ・ ターニングポイント→埼玉国体・インターハイ派遣
 - ・ 審判として覚悟を決めた時…当時のJBA 審判長と約束したこと
⇒S級審判となる為に具体的に年数や目標を定めた。その為に本気で決めて本気で取り組んだ。
 - ・ 高校教員として、バドミントン五輪代表の奥原選手を指導した際に彼女の目標設定(誰よりも細かく、明確に定めていた)からも学んだ。
- ③ 取り組みや気づいたこと
 - ・ 目標を決め、自分が本気で決めて考えたことは必ず実行する。「何をするべきか？」をもっと考える。
 - ・ バスケの理解の向上(コーチなど審判以外のバスケに関わる活動の活用)
 - ・ レベルの高いゲームやその審判を見て勉強する。その為にNBLも数多く足を運んだ。
 - ・ 自分一人では審判は出来ない…家族・仲間・一緒のクルー・TOとの協力
 - ・ 失敗から学ぶ…自身は多くの失敗を経験した。S級になってもNBDLでは初めての事態に遭遇した。

講師 山崎 人志 氏(指名・埼玉県)

テーマ「スリーパーソンについて」

- ① 昨シーズンのNBL・WJBLの話。今夏のWJBL サマーキャンプやBリーグ研修での話。
- ② 導入の理由…高さやスピードが上がることへの対応が求められた。
- ③ 新マニュアル
「Stay and See」「Primary area (first,second)」「Dual area」「Referee the Defence」

「RSBQ」…Rhythm , Speed , Balance , Quickness の一つでも崩れればファウル

「Close Down」 「Non working area」

「Set-up position」…体を 45° にしてリングが見える位置

- ④ リードの動き
- ⑤ センター・トレイルの動き
- ⑥ TOレポートやジェスチャー・表現について
- ⑦ 今大会で実践できること(強い笛・声を出すこと・力強いジェスチャー)

■8月20日(土) レクチャー

講師 関口 知之 氏(日本協会)

テーマ「ゲームマネジメント」

◎上手な審判とは？

⇒突発的な事に対応し、すぐに処置(対応)が出来て、処置(対応)内容も正しい審判。

○映像研修《NBL FINAL 映像より》

※プロジェクターを使用して具体的なケース(映像)を関口氏が解説

- ・ Aチームの選手がトラベリング→ボールを返さず所持→Bチームの選手が叩いてボールを奪う→Bの選手にアンスポーツマンライク・ファウルとなったケース
⇒他の処置方法の可能性についてディスカッション
⇒現場での3人の協力(選手・ベンチの管理・処置の説明…迅速に協力し素晴らしい連携であった)

- ①FIBA の流れ ②3人の協力(プレ・ゲーム・カンファレンスの重要性) ③相手の前への判定
- ④バスケットの進化…バスケットは文化であり、進化していくので対応力が必要

講師 山田 巧 氏(日本協会)

テーマ「S級審判になるためには」

◎新しい情報の収集

(例)IRS(インスタント・リプレイ・システム)を知っているかどうか？

⇒S級には情報が流れるが、A級には下りてこない情報もある。待つのではなく自分で手に入れる。

◎A級審判の義務…①S級を目指す ②地元の若手審判を育成する ③バスケットボールの発展を担う

◎自分とS級審判との違い

◎審判の構成要素

- ①判定力 ②分析力 ③メンタル
- ④表現力・スタイル ⑤環境

■ 審判割り当て(初日)

日 時:8月20日(土)14:00

相手審判:(副審)一色 渉 氏(茨城)

カード:少年男子 栃木県 VS 千葉県

審判主任:長谷川 裕 氏(神奈川)

審判講師:山田 巧 氏(日本協会)

ミーティング内容:

(長谷川氏)

- 試合の始めに手の使い方を整理するべきであった。
- 点差がついた後は細かい判定にならないようにするべきである。

(山田氏)

- ゲーム全体の基準、自分が持っている基準をしっかりと明確にすること。
- TOやベンチ管理の徹底と終わらせ方(時間が動かない時の管理)、その表現の方法。
- 上記も含め、笛の鳴らし方や表現をもっと工夫するべきである。
- リードで右に行かないケースで、トレイルだけがシングルコールより自分も判定しにくい方が良い。

■ 審判割り当て(2日目)

日時:8月21日(日) 9:30

相手審判:(R) 竹澤 友美 氏(埼玉) (U1) 和嶋 (U2) 田中 翔馬 氏(山梨)

カード:少年女子準決勝 神奈川県 VS 千葉県

審判主任: 稲葉 威 氏(本部)

審判講師: 山田 巧 氏(日本協会)

ミーティング内容:

(稲葉氏)

- エリアを越えての判定(プライマリーの理解)に気を付ける。
- ダブルホイッスル・トリプルホイッスルになったケースでの優先順位や位置取り。
- トレイルで自分のエリアから(センター・リードのエリアに)遠ざかるプレーに対して最後まで確認する。デュアルエリアであれば判定した方が良い。

(山田氏)

- 前日同様に後半に細かい判定にならないようにすること。
- チームの戦術や技術の理解、プレーの勝敗の理解を向上させること。
- ボールが自分の逆サイドにある際に自分のエリアを判定することにもっと集中する。
- センター時にドライブプレーを判定する為には、下がるのではなく、中に入ることでスペースやプレーを見極められることがあるので、プレーに応じた工夫が必要。

■ 全体の感想

今回、昨年に続き国体関東予選(ミニ国体)に派遣させて頂きました。関東・東京ブロックのA級研修も兼ねており、日本協会の講師の方からレクチャーや講評を頂くことや、ご一緒に試合を観ながらお話しさせて頂けることができました。

本大会は関東からの国体出場1チームを決めるという大きな大会であり、初日・2日目の割り当てとも質の高いプレーが多く、一つ一つを見極めることの難しさを再認識しました。また、選手・ベンチ・県の関係者・観客が間近から大きな声援をあげる中での緊張感や、会場全体に判定や表現を伝えることの課題も浮き彫りとなりました。A級審判として判定力の向上はもちろんですが、表現方法も向上させなければならないと痛感しました。

大会3日間を通じて、判定力の向上以外にも表現や周りからの見られ方を、今まで以上に意識しなければならぬと感じました。また、昨年度の活動で関東のA級審判とも交流があったことで、多くの方と一緒に試合を見ながら遠慮なく意見を交わすことが出来たことも大きな経験となりました。今大会の経験を活かすべく、今後とも努力する所存です。

最後になりましたが、今回の派遣にあたり大変お世話になりました開催地の山梨県の皆様、日本協会からの講師の皆様、他県審判員の皆様、派遣の機会を頂いた東京都の皆様にご挨拶と御礼申し上げます。ありがとうございました。